

B Z D薬害を考える会

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.2 3 5】

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約400カ所へBCC送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HPの「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS拡散」してください。

【目次】

1. 川田龍平参議院議員を励ます会__2020_11_17 (写真添付)
2. 患者の自殺を巡る裁判で問われるもの (全文添付)
3. 東京女子医大のブランド力失墜で「早大医学部」誕生の現実味
4. 当会への寄付金

【記事】

1. 川田龍平参議院議員を励ます会__2020_11_17 (写真添付)

東京大学鈴木宣弘教授のご挨拶に、「現代の風潮として、今だけ、金だけ、自分だけ」を嘆くお話がありました。

安全な食糧による免疫力の強い体を作る、という方向性で、川田議員と同調されています。

https://www.ga.a.u-tokyo.ac.jp/p_suzuki.html

薬害の前に、「健全な食による健全な体作り」という政策です。

しかし、その政策に賛成しますが、現在も、厳然と「ベンゾジアゼピン薬害」が存在し、多数の被害者が泣き寝入りしており、解決すべき薬害が存在することも事実です。しかも、かつての薬害に比べて、より複雑化しており、患者被害者にとって、より困難な状況にあるため、政治の支援が必要です。今後も、当会は「いのちを守る日本を作る」という川田龍平議員の政策を支援します。

2. 患者の自殺を巡る裁判で問われるもの (全文添付)

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/clinic/jinho/202011/567809.html>

以下引用

『Y医師の診療を受けていた統合失調症の患者が、幻聴等のため、病院に医療保護入院となりました。退院後もY医師が診療を継続し、抗精神病薬の服薬量を減らしていく方針としましたが、しばらくして希死念慮が出現し、その後、患者は自殺しました。この事例において、最高裁平成31年3月12日判決は、大学病院退院後は、希死念慮を表明したことはあったものの、自殺を図るため具体的な行動に及んだことはうかがわれないことや、直前の患者の具体的な言動等 (Y医師は何度か家族と電子メールでやり取りをしていました) から、Y医師に、本件患者の自殺を具体的に予見することができたとはいえず、自殺を防止するために必要な措置を講じるべき義務があったとはいえないと判断しました。』

急激に抗精神病薬を減薬すれば、離脱症状及び希死念慮が発現することは周知であるが、この医療機関も裁判所も、その実態を理解できていない。

ベンゾジアゼピンも同様に、急激な減薬は、取り返しのつかない重篤な離脱症状や自殺企図を招くこと

2020/11/18 23:17

を十分把握している医師が少ない。当然、裁判官はその副作用にまったく無知である。依存性薬物のベンゾジアゼピンによる「**医原性疾患**」で、これまでに一体、どれだけの患者が亡くなったか、想像もつかない。

3. 東京女子医大のブランド力失墜で「早大医学部」誕生の現実味

<https://president.jp/articles/-/40472?page=4>

名門の女子医大も、不祥事続きで経営が悪化して、身売り話が出ているようだ。

4. 当会への寄付金

最近、当会へ現金での寄付金がありました。当会は会費は徴収していないため、寄付金や個人資金で運営しています。寄付のご意志のある方は、以下の口座へ寄付してください。関係機関への要望書の郵送や陳情などの費用に有効活用させていただきます。

● 寄付口座 三菱UFJ銀行 大津町支店（支店コード203）

口座番号 0322330

名義人 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 代表 多田雅史

ゼンコクベンゾジアゼピンヤクガイレンラクキョウギカイ タダ マサシ



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史